平成３０年度　自己評価計画書

石川県立錦城特別支援学校　（№１）

重点目標	具体的取組	主担当	現　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
（１） 児童生徒の主体性を引き出すための授業改善と専門性の向上を図る。	①　チームティーチングの事前や事後の打合せ等で指導のねらいや支援方法等について十分に共通理解を行い、効果的な指導となるようにする。	教務課	これまで研究授業等において効果的な学習環境の整備や教材教具の工夫に取り組み一定の成果があった。指導が効果をあげるよう、チームティーチングの充実が必要である。	【努力指標】 チームティーチングの効果的な手法について理解して、授業で取り組んでいる。	チームティーチングの効果的な手法(別途提示)を「十分に実践している」「実践している」と答えた割合 Ａ：80%以上 Ｂ：60%以上 Ｃ：50%以上 Ｄ：50%未満	【達成基準】 Ａ以上	9月と2月に教員にアンケートを実施する
	②　専門性の向上を図り、児童生徒の特性や能力に応じた授業を展開する。	教務課	教員の専門性向上を継続しており、授業のねらいや個別の目標等を明確にし、保護者等に十分に説明できることが必要となる。	【満足度指標】 保護者や関係機関の方々が、本校の授業内容に満足している。	授業参観等で授業内容に満足している保護者や関係機関の割合 Ａ：90%以上 Ｂ：80%以上 Ｃ：70%以上 Ｄ：70%未満	【達成基準】 Ａ以上	参観者にアンケートを実施する
（２） 系統的にキャリア教育を推進し、進路支援の充実を図る。	①　錦城版キャリア教育プログラムを個別の教育支援計画等に活かし、児童生徒一人一人に１つ以上具体的な実践を行う。	進路支援課 各担任	昨年度より、錦城版キャリア教育プログラムの活用の取り組みを行っており、継続して児童生徒一人一人のキャリア発達を育成できるよう充実させる必要がある。	【成果指標】 錦城版キャリア教育プログラムを個別の教育支援計画等に位置づけ、個別のねらいに対して向上が見られる。	キャリア発達面の個別設定の項目で向上が見られた児童生徒の割合 Ａ：90%以上 Ｂ：80%以上 Ｃ：70%以上 Ｄ：70%未満	【達成基準】 Ｂ以上	9月と2月に個人内評価を行う
	②　毎月のあいさつ運動等を通し、教員自らが見本を示すことで、様々な場面であいさつができる児童生徒を育てる。	指導課 各担任	社会参加には、あいさつは基本的なことであり、よりよいあいさつの仕方をさらに定着を図る必要がある。	【成果指標】 個に応じた方法であいさつの仕方に向上が見られる。	あいさつの仕方に向上が見られた児童生徒の割合 Ａ：90%以上 Ｂ：80%以上 Ｃ：70%以上 Ｄ：70%未満	【達成基準】 Ｂ以上	9月と2月にチェックシートで確認する
	③　進路の手引きを作成して進路情報の提供を充実させ、その活用を図る。	進路支援課	進路だよりや、進路掲示板による情報提供だけでは基礎的な情報の不足が生じており、その改善を図る必要がある。	【満足度指標】 各部の保護者が知りたい進路情報を提供できている。	進路の手引きの内容について、わかりやすく参考になったかどうか Ａ：十分参考になった Ｂ：やや参考になった Ｃ：あまり参考にならなかった Ｄ：参考にならなかった	【達成基準】 Ｂ以上	2月に保護者アンケートを実施する
			進路に関する職員の知識量にばらつきがある。進路の手引き等の活用による校内研修会を実施するなどして、専門性の向上を図る必要がある。	【成果指標】 職員の進路に関する知識量に向上が見られる。	進路の手引きや研修会等により進路情報の知識量について Ａ：かなり増加した Ｂ：増加した Ｃ：あまり変わらなかった	【達成基準】 Ａが70%以上	2月に職員アンケートを実施する

平成３０年度　自己評価計画書

石川県立錦城特別支援学校　（№２）

重点目標	具体的取組	主担当	現　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
（３） 児童生徒の安心・安全に配慮した学校づくりを推進する。	①　危機管理マニュアルやヒヤリハット報告等を十分に活用して、事故防止や健康管理を行う。	指導課	近年、安全面での重大な事故はないが、軽微な事故は発生している。また、さまざまな配慮を要する児童生徒も多く、今一度、安心・安全な学校づくりを推進する必要がある。	【努力指標】 学校生活での危機管理マニュアルやヒヤリハット事例、個々の児童生徒の安全に関する配慮事項考慮して、指導・支援を行っている。	Ａ：とてもあてはまる Ｂ：あてはまる Ｃ：あまりあてはまらない Ｄ：あてはまらない	【達成基準】 Ａ＋Ｂの割合 100％	9月と2月に職員アンケートを実施する
	②　児童生徒の様子等を職員間で共通理解を図り、小さなトラブルを見逃さずに対応していじめの未然防止に努める。	指導課	ここ数年は、トラブルはあったが、いじめには至っていない。今後も、小さなトラブルを見逃さずに対応をとる必要がある。	【努力指標】 いじめの未然防止のため小さなトラブルを見逃さずに対応している。	Ａ：とてもあてはまる Ｂ：あてはまる Ｃ：あまりあてはまらない Ｄ：あてはまらない	【達成基準】 Ａ＋Ｂの割合 100％	9月と2月に職員アンケートを実施する
（４） 本校の教育活動の情報発信や専門性を活かして特別支援教育のセンター的役割を推進する。	①　本校職員の専門性を活かした校内研修会を企画し、地域の小・中学校に参加を呼びかけ、特別支援教育の充実を図る。	相談支援課 進路支援課 チームICT	これまでセンター的役割は専門相談員が担っていたが、本校の教員の専門性を活用して研修会等を企画し、一般の教員によるセンター的役割を充実させていきたい。	【満足度指標】 研修内容が参加者の教育実践に役立つものである。	研修会内容が参加者の特別支援教育の教育実践に「とても役立つ」と答えた割合 Ａ：80％以上 Ｂ：70％以上 Ｃ：60％以上 Ｄ：60％未満	【達成基準】 Ｂ以上	参加者アンケートの実施
	②　ホームページで児童生徒の活動の様子を発信することにより特別支援教育の理解啓発を図る。	情報支援課 各学部	更新は比較的熱心に行われているが、全ての部とまでは至っていない。内容の工夫や適時性を持った更新に努め、さらに充実を図る必要がある。	【努力指標】 適時性を持ってホームページを更新し、児童生徒の活動の様子等を保護者や地域に発信する。	各学部が１年間に行ったホームページの更新の回数 Ａ：40回以上 Ｂ：30回以上 Ｃ：20回以上 Ｄ：20回未満	【達成基準】 Ｂ以上	2月までの各部の更新回数を数える
（５） 教職員それぞれの立場で働き方改革の意義を理解して取り組みを進める。	①　ワークライフバランスを考え、定時退校日を意識し、時間の使い方を改善して業務を行う。	教頭	これまで80時間超の超過勤務の職員はいないが、何も言わなければ退勤時間が20時を超える勢いの職員がいる。「定時」という意識が薄い職員も多い。	【努力指標】 定時退校日等を意識して、時間の使い方を改善して業務を行っている。	Ａ：とてもあてはまる Ｂ：あてはまる Ｃ：あまりあてはまらない Ｄ：あてはまらない	【達成基準】 Ａ＋Ｂの割合 100％ ※勤務時間調査結果の分析も加味して評価する。	9月と2月に職員アンケートを実施する